



# はばたき



No.125

2014. March

## News&Topics

- 薬食研究推進センターを開設
- 学食からグローバル化を!  
ムスリムフレンドリー・メニューはじめました

### 連載

### 研究室訪問

- 薬学研究院附置 創薬探索センター

### 産学民官連携

- “産・学・民・官”の連携を考えるつどい2013レポート

### 活躍する卒業生

- 国際関係学部 / 国際関係学研究科

県大の三リヨク、全開!  
剣祭・橘花祭を  
開催



### 本庶佑理事長が文化勲章を受章



受章の喜びを語る本庶理事長（於 京都大学）

本庶 佑（ほんじょ たすく）理事長が、平成 25 年度文化勲章を受章しました。この度の受章は、分子免疫学研究の幕開けとその後の研究展開に世界で最も先導的な役割を果たした功績が評価されたものです。

京都大学医学研究科寄附講座免疫ゲノム医学講座の客員教授を務め、現在も研究拠点を置く同大学において受章報告の記者会見を行い、「科学者として最高の栄誉で、大変喜ばしいこと」と喜びを語りました。

また、本学での職務についても触れ、「大学改革や国際化を推し進め、公明性、透明性のある競争的環境を作ることが日本の科学の発展にとって重要。静岡県にこうした環境を育てるべく、県立大学の特色ある 5 学部の有機的連携を強化していきたい」と抱負を述べました。

#### 略歴

1942年(昭和 17年) 1月 27日生(京都市)  
京都大学大学院医学研究科修了  
同大学院医学研究科長・医学部長、内閣府総合科学技術会議議員等を歴任  
(学位) 医学博士(1975年・京都大学)  
(著書) 「いのちとは何か 幸福・ゲノム・病」(岩波書店)  
(主な受賞) 2012年 ロベルト・コッホ賞

### 薬食研究の拠点「薬食研究推進センター」を開設

医薬品と機能性食品の併用や相互作用等の研究を推進するため、平成 25 年 11 月 1 日に大学院薬学研究院の附置施設として「薬食研究推進センター」を開設しました。

センターでは、医薬品や機能性食品の開発や作用メカニズムの解析等の基礎研究とともに、地域の医療機関と連携して、医薬品の適正な使用法や有効な機能性食品の開発に繋げるための橋渡し研究を行います。こうした医薬品と機能性食品について、「基礎」と「臨床」の双方向からの学術研究を、附属医療機関を有しない大学において行うのは国内で初めての取り組みとなります。

12 月 10 日に執り行われた開所式では、学内外から約 180 名が参加し、初代センター長である薬学部山田静雄教授によるセンター紹介に続き、山梨大学の岩崎甫教授と金沢大学の鈴木信孝教授を招き、記念講演会を行いました。

本学では、「21 世紀 COE」「グローバル COE」の両プログラムにより、医薬品や機能性食品に関する多くの基礎研究成果が蓄積しており、今回のセンター開設は、これまでの研究の更なる推進と成果の事業化を目的としています。



センター概要を述べる山田静雄センター長（薬学部教授）

### 大学祭を開催しました

平成 25 年 10 月 26 日(土)・27 日(日)に谷田キャンパスでは 4 大の第 27 回剣祭を、11 月 9 日(土)・10 日(日)には小鹿キャンパスで短期大学部の第 17 回橘花祭を開催しました。

#### 実行委員長のコメント

第27回剣祭実行委員長  
前田 典哉(経営情報学部3年)



雨でも元気に呼びかけを行う学生たち



オープニングセレモニーにはふじっぴーが登場



各サークルの演奏やパフォーマンスで盛り上がりました



地域の子どもたちもたくさん来場してくれました

したかった本来の剣祭を開催することが出来ました。50 を超える模擬店、パフォーマンスコンテスト、おとこ気祭、後夜祭には国際関係学部棟に入りきれないほどの人。看護学部棟には、お化け屋敷の長蛇の列。モニュメント下には、各団体のパフォーマンスを楽しむ人。休憩所、模擬授業、フリーマーケットには学内外さまざまな人に足を運んでいただきました。

今年特に不測の事態が多い年でしたが、たくさんの方々の協力のもと無事終わることが出来ました。テーマ

「PUZZLE ～つながるピース～」のもとに実行委員会の皆はもちろんのこと、県大生、地域の方々と剣祭を通して楽しめたことは、私の学生生活での一番の思い出です。

橘花祭実行委員長 竹本 千紗(短期大学部2年)



青空の下模擬店で賑わうグラウンド



県短生によるアイドルユニットのパフォーマンス

今年の橘花祭のテーマは、「SPARKLE」でした。テーマの通り、県短生が輝ける橘花祭になったと思います。実行委員、学生会、各サークルのたくさんの方の協力があり、橘花祭を行うことができました。感謝しています。今年は、来場者、県短生がみんなで楽

しめる橘花祭を目標としてきました。模擬店、学科展示、イベント、どの企画も県短の特性を生かしたのになったと思います。イベントは、県短アイドル、ピンゴ、県短コレクション、カラオケ大会、軽音サークルのバンド発表、吹奏楽サークルの演奏、県大のアカペラサークルの公演を企画しました。どのイベントでも多くの方の笑顔を見ることができました。企画が大変な部分もありましたが、実行委員に助けられました。医療、福祉に関連した学科をもつ県短だからこそできる大学祭を作ることができたと思っています。

改めまして、来場して下さった皆様、供に橘花祭を作り上げた実行委員、協力して下さった皆様、ありがとうございました。



各学科の模擬体験も行われました



実行委員メンバー

## 学食でムスリムフレンドリー食の販売を開始

平成 25 年 11 月より、学生ホール食堂（通称：上食）において、イスラームの教えに基づく「ハラール食」を目指したメニュー「ムスリムフレンドリー・メニュー」の販売がはじまりました。ハラール食とは、ムスリムが食べることのできる食品（信者に禁止されている豚、酒、イスラームの屠畜法に従っていない牛、羊、鶏に由来する食品など含まないもの）を指します。導入の背景について、企画の中心である国際関係学部教授 富沢 寿勇教授に話を伺いました。



火曜日を除く平日に日替わりでカレーやチキンなどを提供し、イスラーム圏からの留学生が主に利用している。この日のメニューはイエローカレー

### ムスリムフレンドリーにより大学のグローバル化を

#### 国際関係学部教授 富沢寿勇

ハラール食導入を目指すことになった直接の経緯は、イスラーム圏出身の留学生が学食でメニュー選択にたいへん苦労しているのをたまたま目撃したことにあります。本学におけるムスリム学生数は国立大学や大手私立大学とくらべればきわめて少数ですが、ムスリム、非ムスリムを問わず、誰でも食べられるメニューを提供することが、大学のグローバル化には是非必要だと考えました。また、日本人をふくむ非ムスリム学生にとっては、このような日常的な食環境を経験することで、国際次元での異質の他者への想像力を身につける生きた学習の機会にもなります。さらにまた、最近注目されている和食の国際受容を推進するためにもハラール対応の食材の開発が望まれますが、そのヒントもひょっとしたらこの学食での新たな試みの中に得られるかもしれません。

おそらく本学はムスリムフレンドリー食を提供することになったわが国最初の公立大学になるかと思っています。その提案が出てから比較的短期間で実施にこぎつけることができたのも、学食スタッフをはじめ、関係各位のご理解ご協力の賜物と感謝します。

## はばたきカフェを開催 男女共同参画について本音トーク

平成 26 年 1 月 16 日（木）、学生と教職員によるキャンパス・フリートーク「はばたきカフェ」を開催しました。今回ののはばたきカフェは新成人を祝う場であり、木苗学長から新成人への祝辞と記念品が贈呈され、参加者が成人を迎えた学生を囲んで祝いました。

「やろうよ 男子会×女子会（だんじょかい）～学生と学長の本音ミーティング in 県大」と題して男女共同参画をテーマに行い、参加者約 70 名が、将来の生き方や働き方について語り合いました。

男女共同参画推進センター長の犬塚協太教授が、男女共同参画の現状に関する簡単な講義を行った後、グループに分かれ、「日本はなぜ男女格差社会なのか」「男女が共に活躍できる社会に必要なことは」というテーマのもと、フリーディスカッションを行いました。ディスカッションは、小グループで席替えを繰り返しながら議論するワールド・カフェの形式を取り、参加者は様々な立場の相手と議論を深めました。

はばたきカフェは、木苗学長の発案で平成 22 年度から開催しているもので、学生と教職員が、お茶とお菓子を摘まみながら気軽にフリートークをし、参加者がリラックスした雰囲気の中で意見交換を行うことで、より住みやすい大学にしていくことを目指しています。

今年度のはばたきカフェはこのほか、学食の「ムスリムフレンドリー・メニュー」の取り組みを契機とする「ハラール食を通じてキャンパス環境や産業のイノベーションを語り合おう」を 10 月 16 日に開催しました。



## 県大を走る！ 第 5 回学長杯争奪学内駅伝大会

平成 25 年 12 月 14 日（土）、第 5 回学長杯争奪学内駅伝大会を開催しました。当日は晴天に恵まれ、27 チーム計 150 名が大学の敷地内約 2.5km のコースを 1 チーム 5 人で駆け抜けました。また、応援やスタッフとして多くの学生・教職員が参加しました。

### 【区間賞受賞者のコメント】

#### 食品栄養科学部 食品生命科学科 3 年 大野 真澄

走って楽しい！私はいつもそう思っています。一般的に嫌われがちなスポーツですが、駅伝なら…チームがあって目標があって、頑張った過程とその結果があって、それを皆で分かち合える点が、この学長杯のすばらしい所だと思います。

私は今年で三回目の出場で、初めて区間賞を貰うことができました。チームとしては JOG 部部長としてなんと



か優勝に導きかかったのですが、準優勝となってしまいました。男子一般と女子は優勝できたことが本当によかったです。とは言っても私たち JOG 部は本来、「なんとなく走りた人」が集まったサークルなので、自分が、そしてみんなが走ることを楽しいと思えるような活動を続けていきたいと思っています。

男子運動部の部（参加：4チーム）

優勝 / 陸上サークル男子	45分16秒
男子一般の部（参加：8チーム）	
優勝 / ジョグ部男子一般	51分16秒
男子混合の部（参加：10チーム）	
優勝 / わかものwithしじば	53分38秒
女子の部（参加：5チーム）	
優勝 / ジョグ部女子A	57分43秒
男子区間賞	8分11秒
女子区間賞	10分52秒

## 留学生交流会



平成 25 年 10 月 5 日（土）に、毎年恒例となっている留学生交流会を開催しました。本学に在籍する留学生と日本人学生が中心

となり、自国の郷土料理や、民族衣装での舞踊などを披露しました。今年は学内外から 100 名以上の参加者が集い、互いの国や文化を超えて親睦を深める良い機会となりました。

### 【参加学生のコメント】

#### 国際関係学研究所 修士 1 年 孫 江明（中国）



私は今年の静岡県立大学留学生交流会で、中国南グループのリーダーを担当しました。今年のテーマは「お国自慢」だったので、母国である中国を改めて見つめ直し、良いところを他の国の人達に伝えたいという気持ちで料理やパフォーマンスを考えました。

今回の中国南グループの料理は、「緑豆湯（緑豆のスープ）」と「東坡肉（中国式豚の角煮）」を用意し、非常に好評でした。またパフォーマンスでは「蹴羽根」という中国の伝統的な遊びを披露しましたが、国を越えてたくさんの人達が参加してくれて、こちらも大盛況でした。

当日までの準備は本当に大変でしたが、たくさんの人達をまとめて何かを作り上げることは、私にとって非常に良い経験になりました。留学生交流会は、料理やパフォーマンス等の文化を通して、自国の文化を他国の人たちに理解してもらっ絶好の機会だと思っています。来年の留学生交流会にも、ぜひたくさんの人に参加してほしいです。

## 学生らがフィリピン台風被害支援募金活動

平成 25 年 11 月に発生した台風 30 号によるフィリピンの被災地支援のため、東南アジアの文化やフィリピンの言語を学ぶ国際関係学部の学生有志が中心になり、募金活動を行いました。

募金活動は大学内からスタートし、静岡市葵区の青葉シンボルロードや草薙商店街等の市街地でも募金を呼びかけました。活動を通して集められた募金の総額は 682,183 円となり、日本ユニセフ協会へと寄付されました。



街頭で募金を呼びかける学生たち

## ジャグリングサークル 牧本 光輔さんが国際大会で入賞

本学公認サークルのジャグリングサークル「五臓六腑」に所属する国際関係学部 3 年の牧本 光輔さんが、平成 25 年 12 月 14 日（土）、15 日（日）にマレーシアで行われた「Malaysia Diabolo Open Competition 2013」に日本チームとして出場し、団体部門で 3 位に入賞しました。



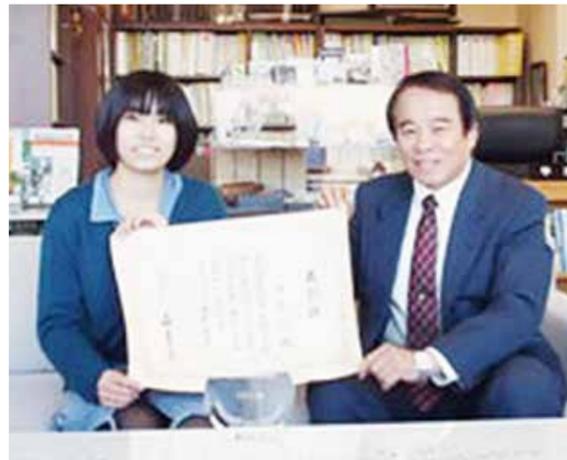
牧本さんは、今回の受賞について「日本チームの受賞に貢献できたことを大変嬉しく思っています。今後も様々な大会に積極的に参加して、いつかは個人部門での入賞を果たしたいと思っています」と喜びと今後の抱負を述べています。

と思っています」と喜びと今後の抱負を述べています。

## YEC が内閣府社会貢献青少年表彰を受賞

本学公認サークルの YEC（若者エンパワーメント委員会）が、これまで行ってきた子ども若者支援の活動が評価され、内閣府の平成 25 年度「社会貢献青少年表彰」を受賞し、平成 25 年 11 月 25 日（月）に東京都内で行われた表彰式に列席しました。

社会貢献青少年表彰とは、社会福祉活動等公共の生活または地域社会に貢献する活動を行い、顕著な功績があった個人または団体を内閣府特命担当大臣から表彰するものです。YEC は、子ども・若者育成支援に携わる関係者を対象とした講演会等を企画立案運営しているほか、中高生の自信や自己肯定感を高めるための「もうひとつの放課後探しプロジェクト」の実施など、若者の社会参画を活性化していく活動を展開しています。



木苗学長に受賞報告をする前代表の鳥谷部 綾香さん（経営情報学部 3 年）

## モスクワ国立国際関係大学副学長と 研究員オリガ氏が来学

平成 25 年 12 月 18・19 日に、本学の協定校であるモスクワ国立国際関係大学（MGIMO）からアレキサンダー・ルキン副学長と、同大学の研究員でオックスフォード大学大学院の修士課程に所属するオリガ・プサノヴァ氏が本学を訪問しました。MGIMO と本学は、本学の創立当初にあたる 1991 年から大学間交流協定を結んでいます。

今回、ルキン副学長はこれまでの本学との国際交流について謝意を示されるために来学され、木苗学長との面談では相互に国際交流を今後も継続・発展させていくことで一致しました。

さらにルキン副学長は、本学の学生とゼミ形式でディスカッションを行い、ロシアにおける外交政策等について議論しました。学生からは、ウクライナとロシア、北朝鮮の問題など、大胆できわどい質問もありましたが、その一つ一つに丁寧に答えていただきました。また、オリガさんは「明治日本における正教神学校と女性信徒について」と題した講演を行いました。オリガさんは 2010 年に交換協定による本学への留学経験があり、留学をきっかけに日本研究を続けています。講演にはかつて彼女の指導にあたった教員が集まり、ホームカミングの様な和やかな雰囲気の会となりました。

国際交流を『交流』から大学間の相互の『連携』へとどうやって進化させていくのか。今後の課題であるとともに、こうした会を継続的に行うことの重要性を感じる交流会となりました。



(上)学長室にて(左から)オリガ氏、木苗学長、ルキン副学長、経営情報学部 上野雄史講師  
(下)学生と議論を交わすルキン副学長とオリガ氏

## “静岡茶を地域からグローバルに” 茶学総合講座が世界緑茶協会と 合同セミナーを開催

本学が昨年開設したお茶の総合研究室「茶学総合講座」と世界緑茶協会が、平成 25 年 10 月から 3 回にわたり、静岡県茶業の活性化に向けた合同セミナーを開催しました。

日本国内ではリーフ茶の需要が減少するとともに茶の価格は低迷し続けています。一方で、世界での緑茶の需給は増加傾向にあり、海外では日本茶が渴望されています。こうした現状を踏まえ、同セミナーでは、茶の交易の歴史や、輸出の現状と課題について各専門家が講演し、茶農家や茶商関係者を中心に各回 40 名程が聴講しました。

12 月 12 日に行われた最終回では、「茶業は地域資源を活用したブランディングで活性化できるか」と題し、本学から茶学総合講座の中村順行教授と、大学附置グローバル地域センターの濱下武志 副センター長が登壇しました。中村教授は、「消費者に継続して購入してもらうためには、高級感、差別化、高付加価値を持たせることが必要」と、県内各地にある歴史・文化や施設などの地域資源を活用した静岡茶のブランド強化について話しました。また、濱下センター長は、米国や中国等の海外における緑茶の販促や生産・流通事情について紹介し、「日本は文化や歴史を生かしたブランド化を図り、和食と併せた静岡茶の情報発信が急務」と、グローバル社会における静岡茶の生き残り戦略について講演しました。

## 平成 25 年度 実験動物慰霊祭の開催



感謝の言葉を述べる菊池隆司さん（薬学部医薬生命化学分野）

平成 25 年 12 月 14 日（土）に小講堂において、実験動物を使用して研究や実習を行っている学生、大学院生や教員など約 200 名が参加し、平成 25 年度実験動物慰霊祭を開催しました。黙祷、学長式辞に続いて、教職員代表の林久由准教授（食品栄養科学部生理学研究室）、大学院生代表の植木桂一郎さん（薬食生命科学総合学府薬科学専攻薬理学講座）、学部学生代表の菊池隆司さん（薬学部医薬生命化学分野）が、実験動物への感謝の言葉を述べました。



木苗学長の式辞と参加者



感謝の言葉を述べる植木桂一郎さん（薬食生命科学総合学府薬理学講座）

ブラジル人対象の医療通訳者養成講座  
28 名が修了

修了式を迎え笑顔の受講生と看護学部の学生ボランティアと講師陣

平成 25 年 8 月に看護学部で取り組みを始めた「在住ブラジル人対象の医療通訳者養成研修プログラム」の修了試験と修了式が、12 月 15 日（日）に行われ、5 か月間にわたり講義や実務実習等に取り組んできた受講生 28 名が晴れて修了を迎えました。

ブラジル人が多く在住する静岡県では、外国籍住民の医療ニーズがあるにも関わらず、言語面での診療環境の整備が進まずに、言葉が通じないまま診療が行われている実態があります。本プログラムは、こうした外国籍の患者に対する診療やコミュニケーションの質の向上のため、患者と医師との仲介役となる医療通訳者の養成を目指し、静岡在住ブラジル人を対象に医療通訳の基礎知識と技術を無料で学べるプログラムとして、看護学部の濱井妙子講師が研究活動として、考案・実施してきました。

プログラムには、通訳の方や、公務員、介護職、一般会社員、主婦の方など、様々な職種の方が参加し、「将来医療通訳として働きたい」「困っているブラジルの方々への役に立ちたい」と、研修に取り組みました。研修では、グループワークや実務実習を通して、通訳の心得など倫理的なことから、医療システムのしくみ、医療・薬学の基礎知識、患者のメンタルケアなど、実践的な知識を幅広く学びました。

濱井講師は、受講生の方々のフォローアップとサポートを継続しながら、今後このプログラムの有効性を評価・検証し、外国籍住民、医療機関、外国人医療に従事する専門家や関連団体が繋がることで外国籍住民を地域医療連携システムの一員として包含することを目指しています。

なお本プログラムは、看護学部のほか、国際関係学部や薬学部、食品栄養科学部などの教員、医療機関や県国際交流協会などの機関と協力連携して行われました。

## はばたき寄金からのお知らせ

「県大生・県大教職員の創造力コンテスト」  
「第 17 回学生文芸コンクール」の開催

表彰式後、学長を交えて

剣祭 2 日目の 10 月 27 日（日）に、はばたき寄金主催の「県大生・県大教職員の創造力コンテスト」と「第 17 回学生文芸コンクール」の表彰式が行われました。県大生・県大教職員の創造力コンテストには 5 件のエントリーがあり、当日スピーチも行われました。学生文芸コンクールの短編小説は 4 篇、短歌は 12 人から 65 首、川柳は 18 人から 90 句、イラストは 18 点、写真は 47 点の応募がありました。

## 県大生・県大教職員の創造力コンテスト受賞結果

部門	受賞	名前	所属	作品名
創造力 コンテスト	優秀賞	先山 晃平	経営情報学部	CoLaBo (コラボ)
	優秀賞	小林 祐介	経営情報学部	大人の職場体験、 キッズを草履で
	優秀賞	持田 歩美	経営情報学部	上食売店改善案 ～みんなが使いやすい 売店を目指すために～
	佳作	大石 奈穂美	薬食生命科学総合学府	静岡県立大学発 究極のコンポスト
	特別賞	丹羽 康夫	食品栄養科学部	笑いのツボ マッサージ

## 第 2 回剣祭イメージキャラクターの募集

剣祭実行委員会と共催で、来年度の剣祭の顔となる第 2 回剣祭イメージキャラクターの募集を行いました。19 件の応募があり、剣祭来場者の人気投票（投票総数 167 票）も加味して審査した結果、最優秀賞は該当がなく、優秀賞 2 件と佳作 2 件が選ばれました。

部門	受賞	名前	所属	キャラクター名
剣祭イメ キャラクター	優秀賞	北條 雅康	薬食生命科学総合学府	レンガマン
	優秀賞	岩崎 希	薬学部	ダンシング・けん太
	佳作	坂本 実咲	国際関係学部	けん坊 (けんぼ)
	佳作	長谷川由紀子	薬学部	ななさん

## 皆様からの基金へのご協力、御礼申し上げます。

今年度も多くの皆様から寄付をいただきましたこと御礼申し上げます。

（敬称略：平成 25 年 1 月～平成 25 年 12 月分寄付の順）  
静岡県立大学後援会、山田静雄（薬学部）、川島博人（薬学部）、  
創星会（食品栄養科学部同窓会）、深澤俊洋（事務局）、  
野口修治（薬学部）、匿名（事務局、経営情報学部教員、  
国際関係学部教員、食品栄養科学部教員）

## 第 17 回学生文芸コンクール受賞結果

部門	受賞	名前	所属	作品名
短編 小説	優秀賞	田部美紗子	薬学部	Be colorful!
	佳作	中林 友里	薬学部	留守参りの亡霊
	佳作	山田 脩人	経営情報学部	青い春
短歌	努力賞	岡本 智之	国際関係学部	あの夏
	優秀賞	岩田彩友美	看護学部	少女
	優秀賞	岡本 智之	国際関係学部	我が道を行く一尾道
	佳作	中林 友里	薬学部	菜の花畑、サラダ
	佳作	高橋 暉	薬学部	超新星爆発
	佳作	松井 幹奈	食品栄養科学部	盆のひととき、草むらの輝き
川柳	優秀賞	永井 啓裕	薬食生命科学総合学府	アルコール
	優秀賞	筒井 陽仁	薬学研究科	結婚フラッシュ
	優秀賞	山梨 智也	薬食生命科学総合学府	おもてなし
	佳作	石井 裕大	薬食生命科学総合学府	健康法
	佳作	望月 俊樹	薬食生命科学総合学府	和
	佳作	小佐野郁香	薬食生命科学総合学府	来年から
	努力賞	中野 達基	薬学部	話題
	努力賞	保坂 大樹	薬食生命科学総合学府	おめでとう静岡
	努力賞	加藤 大地	薬食生命科学総合学府	引導
	最優秀賞	守屋智恵美	薬食生命科学総合学府	青色散歩
イラスト	優秀賞	橋本 有佳	薬学部	ウユニ塩原に行けるなら
	優秀賞	長谷川由紀子	薬学部	また明日
	優秀賞	水野 春花	薬学部	ひまわり
	佳作	都築 奈恵	経営情報学部	星の海の少女
	努力賞	林 美香	薬食生命科学総合学府	タートルさん
	努力賞	鈴木 里佳	経営情報学部	忘れられた喧嘩
	優秀賞	浅田 純司	薬学部	富士山どん!!
	優秀賞	孫 江明	国際関係学研究科	雲と共に飛び上がる 曇りの日に晴れた富士山
	優秀賞	王 齊	薬食生命科学総合学府	日本一の暁
	佳作	望月 佐紀	食品栄養科学部	ダイヤモンド富士かん
写真	佳作	吉田 知夏	食品栄養科学部	3776 + 1.61
	佳作	乾 沙王里	薬食生命科学総合学府	頂上を目指す!!
	佳作	岩田彩友美	看護学部	早朝の富士
	努力賞	加藤由希子	薬食生命科学総合学府	宝永山

# 受賞一覧

\*各受賞の詳細については本学公式サイト内のニュース&トピックスからご覧いただけます。

## 教員

### ◆ヨーロッパ臨床薬理学会 若手研究者奨励賞

薬学部 田中 紫茉莉 助教  
2013年8月



### ◆2013年度 日本地球化学会 奨励賞

環境科学研究所 光延 聖 助教  
2013年9月



### ◆第1回 江口記念がん優秀論文賞

薬学部 辻 大樹 助教  
2013年9月

### ◆クロマトグラフィー科学会 平成25年度 学術奨励賞

薬学部 関 俊哲 助教  
2013年11月

### ◆平成26年度 日本薬学会学術振興賞

薬学部 渡辺 賢二 准教授  
2013年11月

### ◆平成25年度 茶業功労賞

食品栄養環境科学研究所  
中村 順行 特任教授  
2013年11月

### ◆平成25年度 日本環境変異学会学会賞

環境科学研究所 下位 香代子 教授  
2013年11月

### ◆日本薬学会東海支部 平成26年度 学術奨励賞

薬学部 南 彰 助教 岩尾 康範 助教  
2014年1月

## 学生

\*学生の学年は受賞当時のものです。

### ◆環境科学会2013 年会優秀発表賞

生活健康科学研究科 博士後期課程3年 望月 智貴 さん  
薬食生命科学総合学府 博士前期課程2年 大塚 好美 さん  
2013年9月



### ◆第10回 ネットワーク生態学シンポジウム 第9回 シンポジウム最優秀ポスター賞

経営情報イノベーション研究科  
博士後期課程3年  
伏見 卓恭 さん 2013年9月



### ◆第86回 日本生化学会大会 鈴木紘一メモリアル賞

薬学部6年生 芳賀 辰臣 さん  
2013年9月



### ◆フォーラム2013:衛生薬学・ 環境トキシコロジー実行委員長賞

薬食生命科学総合学府  
博士前期課程2年  
藤井 洋昭 さん 2013年9月



### ◆フォーラム2013: 衛生薬学・環境トキシコロジー 平成25年度 日本薬学会 環境・衛生部会新人賞

薬学部5年 栗田 隆三 さん  
2013年9月



### ◆糖鎖科学中部拠点 第11回若手のカフォーラム 2013年度 糖鎖科学中部拠点奨励賞

薬学部4年生 上り口 敬 さん  
薬食生命科学総合学府 博士後期課程1年 松村 龍志 さん  
2013年9月



## 学生

\*学生の学年は受賞当時のものです。

### ◆日本農芸化学会中部支部 第168回例会 企業奨励賞

食品栄養科学部4年生 望月 佐紀 さん  
杉山 由華 さん  
2013年10月



### ◆第30回 有機合成化学セミナー ポスター賞

薬食生命科学総合学府  
博士前期課程2年 朝比奈 彩 さん  
2013年9月



### ◆静岡健康・長寿学術フォーラム ポスター賞

薬学部 高橋 由 さん 薬食生命科学総合学府 池田 絢香 さん  
稗田 螢火舞 さん 福田 達也 さん  
船本 雅文 さん Vuthituyet Lan さん  
家野 太輔 さん 佐藤 友紀 さん  
2013年11月



### ◆10th International Symposium on Trace Elements in Human 2013 Young Investigator Award

薬食生命科学総合学府  
博士前期課程1年 南楚 達也 さん  
2013年11月



### ◆第5回 国際O-CHA学術会議 (ICOS 2013) ポスター賞

薬学部 石井 直人 さん  
2013年11月

### ◆第9回 日銀グランプリ ～キャンパスからの提言～ 佳作

経営情報学部3年生 石神 智代 さん  
大嶋 龍太郎 さん  
2013年11月



### ◆第44回 中部化学関係学協会 支部連合大会優秀賞

薬食生命科学総合学府  
博士前期課程1年 王 晰 さん  
2013年11月



### ◆日本循環器学会第142回 東海・ 第127回 北陸合同地方会 国際交流助成

薬食生命科学総合学府  
博士課程2年 鈴木 秀敏 さん  
2013年11月



### ◆第39回 反応と合成の 進歩シンポジウム優秀発表賞

薬食生命科学総合学府  
博士後期課程2年 大内 仁志 さん  
2013年11月



### ◆日本e-learning学会 (10周年記念)学術講演会 奨励賞

経営情報イノベーション研究科  
修士課程1年 山本 哲平 さん  
2013年11月



### ◆第6回 Webとデータベースに関するフォーラム

学生奨励賞 経営情報イノベーション研究科 博士後期課程3年 伏見 卓恭 さん  
企業賞(サイバーエージェント賞) 経営情報イノベーション研究科 修士課程2年 山岸 祐己 さん  
2013年11月



# 学生の日々

学生たちのサークル情報・課外活動をご紹介します。



## 大人気レストランで食育! 「親子で食べよう おいしい野菜!!」を開催

平成25年8月28日(水)に食品栄養科学部の藤原 朋宏さんが、ピュッフェレストラン「やさしい食菜 葡萄の丘 草薙店」にて夏休みの食育プログラム「親子で食べようおいしい野菜!!」を企画・開催しました。店舗のスタッフ・アルバイトの方々と栄養生命科学部の学生スタッフが運営協力し、当日は小学生のお子さんと保護者の方々約40名が参加しました。

藤原 朋宏(食品栄養科学部3年)

私は、葡萄の丘で大学1年生のときから2年間アルバイトをしており、今回お店の売りの一つである「地元の農家さんが育てた、採れたての野菜を使った自然食ピュッフェ」を提供していることを生かして、自分たちが大学で学んだことをなんとか形にできないかと考えて企画しました。大学で学んだ栄養学や栄養教育、資料の作成や表現を生かすことはもちろん、代表として、スタッフ間の連絡調整や、当日のイメージを何度も何度も重ね、どうしたら間違いなく、問題なく進めることができるか、自分たちが全てを把握する必要がありますがありました。今まで、実習生やボランティアスタッフとして取り組

んだイベントとは全く違う難しさを味わい、企画・運営の立場の大変さ、苦勞を肌で感じることができました。当日は、予想以上に盛り上がり、子供たちの笑顔が見られましたが、これは協力して下さった店舗スタッフの方々と学生スタッフ全員が楽しみながら作り上げて行ったからこそものだと思います。今回は初の食育プログラムということで、1から組み立てることは大変でしたが、アンケートに回答して下さった方全員が「また参加したい」と言って下さったことは何よりの喜びでした。来年以降も、後輩に引継ぎつつ、新しいイベントを企画していこうと思います。



## 就活の不安を希望に変える 「就活準備合宿2013」

学生ネットワークDREAM SEEDS  
山本 みなみ(国際関係学部2年)

平成25年11月9日(土)、10日(日)に焼津青少年の家で、学生ネットワークDREAM SEEDS主催の就活準備合宿を行いました。当日は、静岡県立大学に限らず他大学生を含め約20名の学生が参加してくれました。また、7名の社会人の方と6名の内定者の方に協力していただきました。1日目には、社会人の方にお話を伺うことが中心でした。お仕事のお話だけでなく、プライベートのお話も聞くことができ、社会人のイメージを明確にすることができたと思います。夜の懇親会は社会人と学生が

打ち解ける良い機会になりました。2日目には、自己PRを考えた後、実際に模擬面接を行い、社会人や内定者の方にアドバイスを頂きました。中でも、特に模擬面接は貴重な体験になったという声に参加者から多数上がりました。就活に対し前向きなイメージを持つようになった参加者が増えたように感じ、うれしく思いました。今後も、多くの学生にこのような機会を提供できるように活動していきたいと思っています。



## 「また遊びに来てね」と言われる 被災地支援

ボランティアサークルこじか  
代表 西原 命美(短期大学部2年)

足湯を通して笑顔と会話の花が咲く

短大部ボランティアサークルこじかでは、「清水災害ボランティアネットワーク」の協力を得て、東日本大震災で被災した福島県相馬郡新地町でのボランティア活動を継続的に行っています。これまで計12回の支援活動実績の中で、平成25年12月20日(金)~24日(火)に行った活動を報告します。

参加者は社会福祉学科の学生10名を含む総勢17名。活動場所は、新地町の大戸浜公民館と前田応急仮設住宅。住民の方々とも顔なじみで、焼きそばのにおいに誘われて準備の段階からも皆さんがぞくぞくと集まってきます。室内では足湯、お茶会、ポップコーン、バルーンアートを用意しましたが、皆さんのお目当ては人と人との集いと楽しいおしゃべり。沖縄出身の学生が得意の三線を披露し、サンタやトナカイの登場で会場は大爆笑。今回初めて

参加した学生も、支援をしに来たという肩肘を張ったものではなく、親戚のいる地域にまた遊びに来たという雰囲気の中で繰り広げられる活動にすぐに溶け込むことができ、被災した方々と距離を縮めることができました。



心地よい三線の響きに  
耳を傾ける



被り物で子どもたちに  
囲まれて



恒例の竹灯笼、今回は星に願いを



## 日本大学生訪韓研修に参加

岡部 綾香(国際関係学部2年)

平成25年9月に、日韓文化交流基金のプログラムである日本大学生訪韓研修に参加し、韓国の文化や歴史、日韓関係について学んできました。

韓国と北朝鮮の間に位置する村「板門店」は特に印象的で、想像していた以上の緊張感がありました。日本では国交を結んでいない北朝鮮という国が目の前にあるという不思議な感覚とともに、少し怖いという感情を覚えました。警備にあたる韓国の兵士は外国語が堪能な大学生で、拳をギュッと握り締めて身動きせず、まるで人形のような様子でした。私たちと同年代の方が最前線に立ち、国を守っていることが信じられませんが、それが分断国家の現実であることを痛感しました。

私たちが日本文化を紹介した「日韓交流おまつり2013 in SEOUL」では、韓国の大学生と協力し、ちぎり絵を来場者に体験いただきました。完成したちぎり絵に笑顔のお客さんを見て私たちも嬉しくなりました。

政治上の日韓関係はあまり良好とは言えず、メディア報道は互

いの国民にマイナスのイメージを与えているようにも見えますが、実際に触れてみるとそうではありませんでした。日本に関心を持ち、日本語を漫画やアニメを通して独学で学ぶ若者が多くいます。政治や外交における日韓関係と民間交流のそれは異なるものであり、そこには争いや派閥はないと感じました。

今回参加したことで新しい発見と、韓国により関心を持つことができたので、多くの日本人学生にこのようなプログラムに積極的に参加して欲しいと思います。これから私たちが研修で学んだことを多くの人に伝えていくことが、今後の日韓関係の構築に繋がれば嬉しいです。

- 研修行程
- 1日目 韓国ソウル → 2日目 日韓協力事務局訪問及び文化探訪 → 3日目 在韓日本大使館広報文化院訪問及び文化探訪 → 4日目 韓国外交部及び韓国外国語大学訪問 → 5日目 板門店見学及びホームステイ(〜6日) → 7日目 「日韓交流おまつり2013 in SEOUL」 → 8・9日目 全州にて文化体験 → 第10日目 釜山APECサリマル見学及び帰国



●ボアジチ大学(トルコ)からの交換留学生  
ベルナ・タリさん、メルヴェ・ヤッシさん

●留学期間  
2013年9月～2014年8月(現在在学中)



### Q1. 日本に留学しようと思ったきっかけは?

**タリさん:**子供の頃はアニメを見るために早起きをしていました。それから自分でアニメのキャラクターを描き始めました。高校の時にはヤッシさんから勧められた日本のドラマを見るようになり、やがて日本文化に興味を持ち始めました。ボアジチ大学では日本語コースを専攻しています。

まだまだ日本について学びたいことが沢山あります。

**ヤッシさん:**日本に興味を持ったきっかけは「セーラームーン」でした。それまではあまり日本の事を知りませんでした。とても興味を持ちました。高校に入ると、日本のドラマを見たり音楽を聴いたりするようになりました。その頃から日本語を本格的に学ぶことを考え始め、いつも日本に行くことを夢見ていました。大学2年の時に日本語を勉強し始め、その2年後に日本に行くという子供の頃からの夢を交換留学生として実現することができました。日本での勉強の目的は日本語能力の向上と日本文化の学習です。

### Q2. 日本ではどんなことを学んでいますか?

**タリさん:**留学は私にとって大きなチャンスでした。アジア諸国について、異なる視点でさらに学ぶことができます。以前はアジアの文化を西洋的な視点で理解しようとしていました。さらに韓国語の授業を日本語で学ぶことは大変興味深い体験です。

**ヤッシさん:**韓国語表現法という授業をとっています。毎週このクラスでは面白い発見があります。日本語と韓国語を上達させることができるだけでなく、文化の相違についても学ぶことができます。

### Q3. 日本へ来て驚いたことなど 印象的な体験はありますか?

**タリさん:**日本のサービス産業がとても印象的です。レストランや買い物の時には、皆さんがとても親切に助けてくれます。

**ヤッシさん:**県立大学での授業はボアジチ大学と違い大変驚きました。一番驚いたことは、授業が一週間に一度しかなく、私の受けている授業では中間試験がないことです。授業で困難なことがあっても学生と先生がとても親切に助けて下さいます。ここに来ることができて、本当に良かったと思います。

### Q4. 留学経験を踏まえて、 今後の目標を教えてください。

**タリさん:**将来は世界中を旅行し、様々な文化を体験したいです。

**ヤッシさん:**私は学んだ言語を活かして通訳の仕事がしたいです。



## 活躍する卒業生

図書館の岡村昭彦文庫との  
出会いが記者を志すきっかけに。



お名前 熊谷 拓也さん  
卒業学部 国際関係学部・国際関係学科  
(2012年3月卒業)  
勤務先 信濃毎日新聞

や人に出会って知識と経験不足を実感すると同時に、その都度やりがいも感じられます。

### Q2. 学生時代の経験で今に生きていることはありますか?

ギターマンドリンクラブやIFC(国際交流クラブ)の活動、フランスのリアル政治学院への交換留学などいろいろな経験をしたことで視野が広くなり、今の仕事にたどり着いたと思います。中でも、県大の図書館に蔵書が収められているフリーランスの報道写真家、岡村明彦との出会いは、記者を志望する上で大きなきっかけになりました。特に国際関係、看護の両学部の学生さんには、ぜひ一度「岡村明彦文庫」を訪れてもらいたいです。

### Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか?

県大に来てよかったと思うのは、先生方との距離が近いことです。約束もなしに研究室を訪れてくる学生を、快く受け入れてくれる大学はそう多くはないはずです。毎日のように訪ねたある研究室では、人生の糧になる良書をたくさん紹介してもらいました。単純に、プライベートな話も打ち明けられるざっくばらんな雰囲気も気に入っていました。

### Q1. どんなお仕事をされていますか?

長野県のほぼ中央にある諏訪市など6市町村を管轄する、3つの警察署、6つの消防署、1つの裁判所を担当しています。主には事件・事故、裁判の記事を書き、その他、小学校の話題や展示会なども取材します。日々、新しい出来事

静岡の未来のために  
子どもの成長を支えたい。



お名前 宇藤 千紗さん  
卒業学部 国際関係学研究科・比較文化専攻  
(2013年3月修了)  
勤務先 静岡県立裾野高等学校

え、日々生徒とのコミュニケーションがあり、時には保護者を交えての生徒指導も行います。生徒との関わり合いこそが、教員という仕事の醍醐味であると感じています。

### Q2. 学生時代の経験で今に生きていることはありますか?

IFCという国際交流サークルの部長を務めていた時に、日本人部員と留学生部員との間で、文化祭の模擬店の会計システムについて口論が起こった事がありました。両者と話をしたところ、口論の背景にはお金の扱いに関する文化的違いがあったのだということがわかりました。この経験から、「自分とは異なる考え方が存在することを受け入れ、それを裁かないこと」の大切さを学びました。今の職場でも、これを意識して生徒や同僚に接しています。

### Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか?

「静岡県が大好き」と思えるようになったことです。静岡県立大学では、地域活性化の取り組みや、郷土について学ぶ講演が多く開かれており、これらを通して静岡を誇れる故郷だと感じるようになりました。また、私は在学中に出会った留学生の友人たちに、「静岡は気候も人もあ

### Q4. 今後の目標について教えてください。

入社丸2年を迎えようとして、ようやく今の職場に慣れてきたところです。ついこの間まで、ごく当たり前の学生生活を送っていた自分にとって、取材で事件や事故の当事者に接する経験は衝撃的でした。今日までに何度もやり切れない思いを味わいました。記者の力量の差は、現場に漂う空気感や取材時に感じた思いを、どれだけ“生”に近い状態で読者に伝えられるかで分かれると思います。これからも取材先に迷惑をかけながらも、少しずつ成長していきたいです。

### Q5. 在学生にひとことメッセージをお願いします。

先輩・後輩や留学生、地域の人など、自分とは違う立場や環境にある人と交流する機会を多く持つことをお勧めします。自分と異なる考えを受け入れられる人は、弱い立場の人に寄り添って考える力を持っているはず。まったく異なる価値観を持つ人とのコミュニケーションが楽しめるようになれば、人はもっと楽しくなるはずだと信じています。自分がフランスで留学生になったとき、特にそう感じました。

### Q4. 今後の目標について教えてください。

これは静岡県立大学のキャリア支援スタッフの方の受け売りですが、理想とする「未来の地域社会」を描くことで、教員として「子どもの成長」を支えたいと言う気持ちがより明確になる、ということをおっしゃっていました。私の理想の未来地域社会像はまだ漠然としているので、今の仕事を続けながら、これを具体的に描いていきたいと思っています。

### Q5. 在学生にひとことメッセージをお願いします。

長い大学生活の間に、必ず一度は外国に旅に出て下さい。できれば観光旅行で終わらず、短期間でもそこに住んでみてください。できるだけ日本語が通用しない地域が良いです。外国の空気を感じて、現地の人々と外国語や身振り手振りを使って触れ合ってみてください。私は海外に出るのに特別な目的はいらないと思っています。異文化と触れ合うことは、それだけで素晴らしいことだと思います。

# 産学民官連携

本学が取り組む産学官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

## Report

### “産・学・民・官”の連携を考えるついで2013

産学官連携推進本部  
本部長 奥直人



バイオ医療の動向などについて語る宮田 満氏



研究発表・交流会

9回目となる「産・学・民・官」の連携を考えるついで2013」を11月22日（金）に開催しました。第1部「産学民官連携セミナー」、第2部「研究発表・交流会」の2部構成でした。

第1部では、木苗直秀学長、静岡県経済産業部部長代理のあいさつ、私から「本学の産学民官連携活動の紹介」に続き、特別講演として、日経BP社特命編集委員 宮田満氏から、「産学民官連携」によるイノベーション」と題して、科学ジャーナリストの立場から大学がいろいろな組織を持つシーズ、技術、ノウハウなどを繋ぐ、連携させることができるという大きな強みを持っているという話やバイオ医療の動向について、御講演いただきました。

第2部の「研究発表・交流会」では、全学部の教員等による84ブースで、日頃の研究内容のポスターを掲示し、教員が来場者に説明をしたり、試作品展示や試食品の提供、情報交換が行われたところです。大学内で、全学部の研究内容を知る機会とあって、地域企業の方も数多く、研究成果のポスターを御覧になりました。県の主要施策である静岡新産業集積クラスターの紹介、公設試験研究機関、産業支援団体も出展していただき、本学教員等と交流しました。

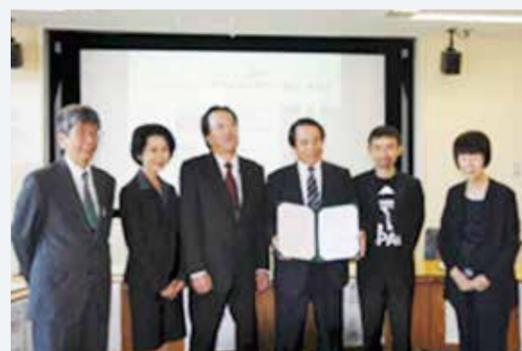
この機会を通して、産・学・民・官の連携による地域産業・地域社会へ貢献のヒントが得られ、さらなる「知の発信」の重要性を再確認しました。学内外の多くの方に御参加・御協力をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

### ムセイオン静岡「文化の丘づくり事業推進に関する協定」の締結

10月2日（水）に、本学、県立中央図書館、県立美術館、県埋蔵文化財センター、SPAC(県舞台芸術センター)及びグランシップの6つの教育文化機関は、「文化の丘づくり事業推進に関する協定」を締結しました。

この協定は、これまで、静岡県の文化振興やまちづくりに貢献することを目的に、6つの参加機関が相互協力して、文化、芸術等を学び、考える場を提供し、「ムセイオン静岡」と称して文化を発信する活動を展開しており、その活動を更に充実させ、安定的に発展させるために締結したものです。

今年度は、文化・芸術・教育を学ぶ機会となる「ふじのくに文化の丘フェスタ2013」を6機関が協働して実施したほか、富士山世界文化遺産登録にちなんで富士山に関する文化を学ぶ公開講座「マウント・カルチャー∞」などを開催しました。



6機関の代表 協定締結式にて

## 薬学研究院附置 創薬探索センター

浅井 章良 教授  
(抗がん剤探索、創薬科学、ケミカルバイオロジー)

■教職員(教員4名、実験補助員3名、客員共同研究員1名)

■学生(大学院生9名、学部生4名)

◎将来の新薬開発を担う人材の輩出 ◎新規医薬品候補物質の創出  
http://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/tansaku/



「ネットワークが軽く小回りが利く」と教授自ら評するセンターは、少数精鋭で教職員と学生が一丸となって化合物の分析・評価を行い、薬の候補の探索を行っている

### 目指すは「静岡発の抗がん剤」の開発

日本人の死因の第1位を占め、その治療薬の開発が望まれている「がん」。2004年、国内の大学では初の創薬探索研究機関として誕生した創薬探索センターでは、医療品開発支援戦略で静岡発の創薬を目指すというミッションのもと、新たな分子標的抗がん剤\*1の創出に向けて日々研究が行われています。センターでは、がん細胞の増殖に影響を及ぼす「STAT3」と

いう転写制御因子に着目し、その機能を阻害する化合物の探索を重ねた結果、がん細胞の増殖を抑制する化合物を見出し、米国や豪州等でSTAT3阻害剤の特許登録に至りました。センターを統括する浅井 章良教授は、「海外での権利化は国内製薬企業と共同開発を進めるための礎となる」と今後の臨床試験や治験に向けて期待をよせています。

### アカデミア創薬の重要性

センターの環境を「インターンシップに近い」と語る浅井教授の下には、がん治療や創薬研究に意欲のある学生が集います。学部生の受け入れは3年前から始まったばかりであるものの、製薬企業や公的研究機関に勤める傍ら大学院で学ぶ社会人が在籍するため、毎週末に開かれる勉強会は、学生にとっては社会人の研究技術や知識に直に触れる貴重な機会となっています。

しかし、こうした実践的な研究活動の背景には、センターが静岡県の「ファルマバレープロジェクト\*2」の一環で設立されたこともあり、常にシビアに結果が求められることも事実です。「基礎研究から医薬品として承認されるまでには、長い年月と莫大な費用がかかります。今回特許登録された阻害剤も、世に出る確率は100分の1というシビアな世界ですから、学生たちには時に厳しくなることもあります。」

一方で、大学での創薬研究の重要性を浅井教授は強調します。「数々の優れた薬は、研究者たちの挑戦と失敗の上に成り立っています。例えば「シスプラチン」という抗がん剤は、微生物に与える電気の影響の研究過程で、プラチナ(白金)錯体から抗がん作用が偶然に見えられて生まれました。また、薬にならなかった化合物が新たな生命科学を切り拓くこともある。今は厳しい時代で、企業等

の研究現場も合理化や限定化が進んでいますが、自由度を持って研究できる環境が大切。学生には大学という自由な場でセレンディピティ(偶然の意外な結果に着目し新しい成果を得る力)を研ぎ、研究者として何が必要なのかを考え、学んで欲しいと思っています。」

センター開設から10年を迎え、浅井教授は、(株)旺文社 創業者である赤尾好夫氏の「勉強十戒」の一節を引いて教育・研究への思いを語ってくれました。「大胆にして細心であれ」——研究には、広い視野と、技術の追究の双方が必要であることを学生に伝えていきたい。いつかセンターを巣立った卒業生とともに静岡発の新薬を開発できる日が来ることを願っています。」

\*1 分子標的薬：従来の抗がん剤は、がん細胞のみならず、正常細胞にも傷害を与えるために副作用が問題だったのに対し、がん細胞が持つ性質を分子レベルでとらえ、それを標的として効率よく作用するため、副作用を抑えながら治療効果を高めることができる。

\*2 ファルマバレープロジェクト：製薬企業の研究拠点や製薬・医療機器工場が数多く集まり、医薬品・医療機器の生産額が全国トップクラスである静岡県で、「健康長寿世界一」を目指し取り組まれている先端健康産業集積プロジェクト。医療健康産業の集積と振興を図るため、産学民官が協働し、医療からウエルネス産業にいたる世界トップレベルの研究開発が行われている。

### 学生の声

#### “他の研究室にはない 魅力があります”

◎学部4年生 渡部 美都さん



創薬探索センターは所属する先輩がまだ少なく、未知数な部分もありましたが、他の研究室とは異なる点や、抗がん剤の開発研究という明確なビジョンに惹かれて希望しました。学生数が少なく、合成系の研究を行うのは私だけなので、担当の小郷講師にはほぼマンツーマンで指導いただいています。卒業論文は、がんを高発現しているトリプトファン代謝酵素に対する阻害剤の合成と構造活性相関について発表しました。今後は大学院進学後の学会発表も見据えて、新たな研究にも取り組んでいきたいです。

#### “高校生の頃からの夢を現実に”

◎修士課程1年 稲葉 彰さん



現在私は、VHLというがん抑制遺伝子が欠損した細胞に作用する新規化合物の探索研究と並行して、関連した研究をもう一つ進めています。社会人の方の研究を傍で見られることはセンターの魅力です。薬学以外の視点からも考察する姿勢や、実験手法は勉強になります。学生同士の仲も良く、化合物の選出基準や実験結果についてお互いに意見交換をしています。高校生の頃からがん治療の分野に興味があったので、抗がん剤の創出に携わっていることは素直に嬉しいです。将来はやはり研究職に就きたいと考えています。



附属図書館リニューアルの  
その後と今年度の取り組み

附属図書館では、学生の多様な学習スタイルに対応するため、平成二十三年度にラーニング commons(学びのための共有スペース)に向けた施設・設備の改修、整備を行いました。

その目玉は、自由に椅子や机を配置できるLC(ラーニング commons)フロアの整備で、静かに自習をする場所だった三階の閲覧席が、パソコンやプロジェクタ、ホワイトボードなどを使いながら多人数で議論や発表形式の学習を行える自主的学習空間に生まれ変わりました。



図書館としては、施設や設備などハード面の整備だけでなく、今後は学習支援サービスなどソフト面についても、学生のニーズを考えながら充実を図っていきたいと考えています。



今年度はその一歩として、後期の図書館講座において、レポートの作成手順が学べる「レポート作成基礎講座」、新聞記事の探し方だけでなく記事の根拠調べや社説の比較の仕方が分かる「新聞記事に強くなる講座」、講座などを開催しました。さらに、グループで発想する時によく使われる発想法の進め方とポイントを説明したシートを作成し、それを使ってグループワークを行えるようにLCフロアなどで配布しています。

講座で身に付けた情報リテラシー能力を活かして調べ、発想法のシートを参考にアイデアを考える学生の姿が数多く見られることを期待しています。

教員人事、新規客員教授、名誉教授の紹介

◆採用 平成25年10月1日付

氏名	部局名	職員
糸川 紅子	看護学部	講師
本間 一江	食品栄養科学部	助教
江上 寛通	薬学部	助教
田中 秀則	薬学部	特任助教
池内 和忠	薬学部	特任助教

◆昇任 平成25年10月1日付

氏名	部局名	職位
江木 正浩	薬学部	准教授

◆退職 平成26年2月28日付

氏名	部局名	職位
豊岡 達士	環境科学研究所	助教

平成25年12月1日付

中村 俊之	食品栄養科学部	助教
-------	---------	----

平成26年1月1日付

小出 裕之	薬学部	助教
原 幸大	薬学部	助教

◆新規客員教授 平成25年10月1日付

氏名	所属・職名	区分	期間
高橋 幸利	国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター副院長	教授	H25.10.1~H28.3.31
高木 邦明	麻布大学生命・環境科学部教授	教授	H25.10.1~H28.3.31
五十里 彰	岐阜薬科大学教授	教授	H25.10.1~H28.3.31

◆名誉教授 平成25年4月1日付

氏名	元職
稲田 晴年	国際関係学部教授
鈴木 直義	経営情報学部教授 (経営情報学部長)

平成25年度学位記授与式(卒業式・修了式)について

平成25年度の学位記授与式(卒業式・修了式)を開催いたします。

- 開催日 平成26年3月18日(火)
- 開場 午前9時10分
- 着席 午前9時40分
- 開式 午前10時
- 会場 グランシップ大ホール 海  
静岡市駿河区池田79-4(最寄駅 JR東静岡駅 徒歩3分)



なお、保護者の方の席をご用意しておりますので是非ご列席ください。

問合せ先 電話 054-264-5009(学生室)

はばたきへのご感想をお寄せください

「広報誌はばたき」へのご感想・ご意見、今後取りあげてほしいテーマなどをお聞かせください。住所・氏名・電話番号を明記し、郵送もしくはEメールでお寄せください。いただいたご意見は今後の誌面づくりの参考とさせていただきます。

また、ご意見・ご感想の内容を広報誌に掲載させていただくことがあります。掲載を希望しない場合、匿名を希望する場合はその旨をご記入ください。

お問い合わせ先は巻末をご覧ください。

本学教員からの寄贈著書

- 木苗直秀学長ほか本学教員  
『茶の機能: ヒト試験から分かった新たな役割』新版  
木苗学長・本学教員ほか執筆 農山漁村文化協会(619/88/C33)
- 岩崎邦彦先生(経営情報学部)  
『小さな会社を強くするブランドづくりの教科書』  
日本経済新聞出版社(675/196)
- 本学看護学部教員・研究科院生  
『グローバル化・健康福祉政策と公衆衛生・倫理』現代公衆衛生学第2巻  
本学看護学部教員・研究科院生ほか執筆 クオリティケア(498/Ma74)
- 栗田和典先生(国際関係学部)  
『18世紀: 1688年-1815年』オックスフォードブリテン諸島の歴史 第8巻  
ポール・ラングフォード編 栗田和典ほか訳 慶應義塾大学出版会(233/5h96/8)

販売会社のありかたについても配慮したシステムです。大量生産システムは部分最適化を、リーン生産システムは全体最適化を目指していると言ってもよいでしょう。

私たちが本書から学べることは、「概念化」だと私は思います。日本人の研究者の言説は概念化が弱いと常々言われているのですが、本書はそれを具体的に学べると私は思います。周知の事柄を、どのように概念化することができるのでしょうか。

この書物が私にとって意義深いものである理由は、私の大学院修士課程の教材として、精読した上での議論の重要性を、この本を通じて叩き込まれたからです。本の内容だけでなく、どのように読んだのかという点も個人に及ぼす影響は強いようです。

シリーズ  
私の1冊の本

経営情報学部 講師 森 勇治

紹介図書

『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。』  
—最強の日本車メーカーを欧米が追い越す日—

著者名: ジェームズ・P・ウォマック(ほか) 著 沢田博 訳  
出版社: 経済界 ●図書館所蔵: 閲覧室2階  
●ISBN: 4-766780-73-6 ●請求記号: S37.09/W85





しずぎんで  
給料やバイト代を  
受け取る口座をつくろう！  
それが、リア充への近道！



リア充の中のリア充  
ほん と みつる  
本戸 充

0:05/0:15

コメント



しずぎんは静岡県の地銀・信金で**店舗数No.1**※

※「金融ジャーナル増刊号2013版」より(静岡県内に本店を置く地銀・信金で比較)



セブン銀行・イオン銀行のATMで引き出す場合も**手数料が0円!**※

※お引き出し手数料0円の時間帯/平日8:45~18:00、土曜9:00~14:00



今なら対象の取引<sup>※1</sup>でプレゼントがもらえるよ!

全店合計先着 **3,000** 名さまに amazon.co.jp **ギフト券 500** 円分

●Amazon.co.jpは、ネプロモーション企画・プログラム・キャンペーンの sponsor ではありません。●Amazonギフト券贈付については <http://amazon.co.jp/giftcard/fo> (PC)または [http://amazon.co.jp/page\\_to\\_sw](http://amazon.co.jp/page_to_sw) (携帯)をご確認ください。  
●Amazon、Jlever.jp、Amazon.co.jpおよびAmazon.co.jpのロゴはAmazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。●個人情報情報は静岡銀行によって収集・利用・管理されます。

さらに、他にも抽選でステキなプレゼントが当たります!※2

※1 次の条件を全て満たしたお客さまが対象となります。●静岡銀行の口座を給与の受取口座に指定し、5月30日(金)までに50,000円以上のご入金をいただいた方(学生の方は、新たに普通預金口座を開設し、50,000円以上ご入金があった方) ●「しずぎんダイレクトライト」をご利用した方 ●店頭でお渡しする「応募ハガキ」、または当行ホームページ(パソコン・スマートフォン)の「応募フォーム」から、5月9日(金)までにキャンペーンにご応募いただいた方(応募ハガキは当日消印有効)  
※2 プレゼントの内容や条件についてはしずぎんホームページをご覧ください。



キャンペーン期間は**平成26年2月17日(月)~4月30日(水)**  
しずぎんへ急ごう!

しずぎん **新生活応援** キャンペーン

Dream with you.



静岡銀行

詳しくはしずぎんホームページをご覧ください。

1410039 2014年2月

広報誌はばたきに広告を掲載する事業者を募集しています。

広告掲載については本学公式サイト「企業・一般の方へ」のページをご覧ください。